

丸亀城管理室だより No. 7

令和 3 年 1 月 22 日

あけましておめでとうございます

令和3年1月1日、お正月の天気予報は荒天予想でしたが、澄み切った空気の中、天守で初日の出を見ることができました。新しく昇る太陽に工事の安全と石垣の早期復旧をお願いして、新年を迎えました。



【飯野山よりのご来光】



【初日に照らされる丸亀城天守】

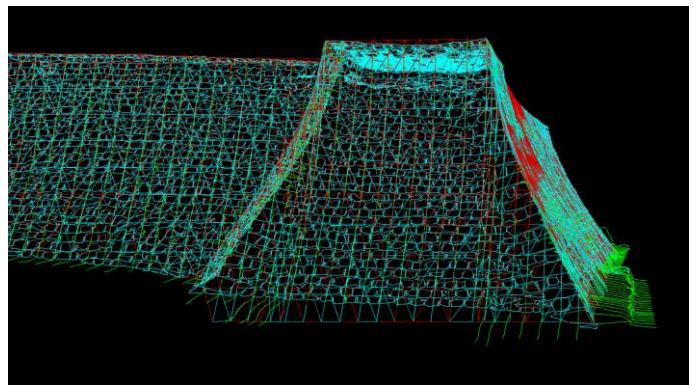


【正月飾りでお出迎え】

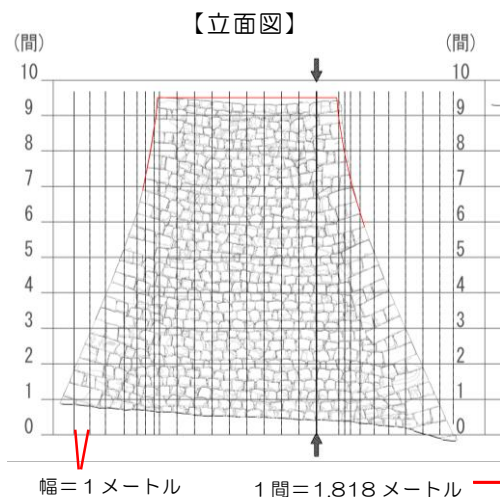
三の丸復旧勾配検討

現在、石垣復旧工事では、三の丸石垣の解体と帯曲輪の崩落石材の回収を行っています。帯曲輪石垣の解体が終わると、石の積み直しが始まります。文化財石垣の復旧は、石材を元の位置で再利用することが原則ですが、石の割れや開き、孕み出し等を修正しながら、健全な姿に戻さなくてはなりません。

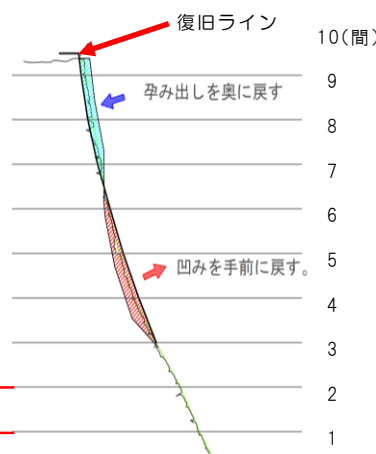
右の図は、三の丸坤櫓台跡の西面です。崩落前の測量図に復旧勾配（復旧ライン）を重ねて、3次元で表したものです。この図には様々な情報が詰まっています。



【三の丸西面3次元モデル】

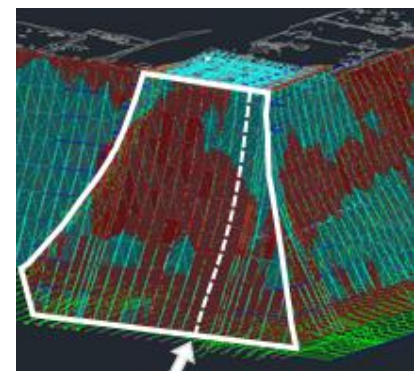


【垂直断面図】



ちょうかんす
【鳥瞰図】

上空から斜めに見下ろした図



【立面図】において幅1メートルごとの垂直断面図を作成します

【垂直断面図】では、復旧ラインより内側に凹んでいる石（赤色）、復旧ラインより前面に孕み出している石（青色）があることがわかります。

今後、解体・調査の中から築城時の技術を探り、現代に残る石垣技術に加え、3次元の映像化技術等の先端技術も活用しながら、復旧検討を進めます。

第2回石垣復旧市民説明会・現場見学会

1月10日 丸亀城石垣復旧工事の市民説明会・現場見学会を開催しました。新型コロナウイルス感染防止対策を行い、密を避けるため3回に分けて実施しました。会場となった延寿閣別館は、旧藩主京極家の江戸屋敷の一部を昭和8年(1933)、丸亀城三の丸に移設した建物で、昔のまま保存されています。

説明会では、崩落の経緯について、文化財的な視点と、工事のこれまでの調査結果から推測する崩落メカニズムの中間報告を行いました。



現場見学会では、普段入ることのできない工事現場で石垣の背面構造やグラウンドアンカーを間近で見させていただき、文化財担当と土木担当から現地ならではの説明を行いました。



最後に石垣復旧PR館で丸亀城の歴史を解説し、埋没石垣の公開展示を見させていただきました。



各回定員 25名、
合計 72名の方にご参加いただきました。



説明会では、雨水対策、排水処理、埋没石垣、丸亀城全体の石垣管理などの質問が寄せられました。質問の回答は市のホームページに掲載させていただきます。

小学校が校外学習に活用

丸亀市立城西小学校、観音寺市立常磐小学校の4年生が校外学習で丸亀城を訪れ、資料館、石垣復旧PR館、埋没石垣の公開展示を見学しました。

城西小学校の生徒が校外学習で学んだ成果をクイズや新聞にまとめ、常磐小学校からはお礼のメッセージが届きました。どちらも復旧の願いが込められた力作です。石垣復旧PR館にて順次展示しますので、皆様ぜひご覧ください。



【城西小学校 4年生の作品】



丸亀城クイズには中級者編、
上級者編があります。

メッセージを石垣のように積み
上げるのはアイデアですね。

【常磐小学校 4年生の作品】

出現!!「埋没石垣3」

掘削中の三の丸斜面南面から新たに埋没石垣が出現しました。3番目に出てきたので「埋没石垣3」と名づけ、丁寧な記録を行い、原位置に残せない石を一部解体しました。

これまでの埋没石垣と異なる点は、安山岩でほとんどが手で持ち上げられる大きさです。平成30年の崩落で南下方向に引きずられ、崩落土と共にずり落ちながら、かろうじてこの位置で留まったものと考えています。



背面の土層の状態から山崎時代の石垣と推測されます。

タヌキもいます

あやめ池(玄関先御門横)にタヌキがいました。珍しいお客さまに会い、丸亀城に残る自然の豊かさを感じました。



作成：丸亀市教育部 文化財保存活用課
丸亀城管理室 TEL0877-23-2107